

久留米大学教職課程学生の教職観

白石義郎・濱本 隆[※]

The teaching image of the teacher-training course student in Kurume University

Yoshiro SHIRAISHI・Takashi HAMAMOTO

要約

大学教職課程の学生がどのような教職観(教育観・教師観)をもっているかを調査することにより、教職課程での学生指導を円滑で効果的なものに行うことができると考えた。学生に自由回答によるアンケートをとり、集計、分類して学生の教職観を描き出し、教師に求められる課題を整理した。

Abstract

By investigating what kind of images of children and teachers the student of Kurume University had, I will research the effectiveness of training course at Kurume University.

So, I took the questionnaires by the open answer to students and added them up. I classfied them and drew their images of teaching. At last, I found problems demanded to teachers.

【キーワード】 教職観 教師観 教育観 生徒教師関係 生徒指導 履修カルテ 調査研究

1 問題の所在

本論考は教職受講者がどのような教職観をもっているか、その教職観は何に由来するかを調査し、分析したものである。

教職を希望する学生は教職に何らかのイメージをもっており、それが教職志望の動機を規定していることが知られている。しかし、その教職イメージがどのようなものであり、それがどのような学校体験に由来するものであるかを明らかにした研究は少ない。

教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策等について」(昭和62.12.13)では、「教員の活動は、人間の心身の発達にかかわるものであり、幼児・児童・生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものである。…教員については、教育者としての使命感、人間の成長・発達について深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広くて豊かな教養、そして、これらを基盤とした実践的指導力が必要である」と指摘している。更に、教育職員養成審議会・第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」(平成9.7.28)では、「教員の資質能力の形成に係る役割分担のイメージ」の「養成段階」の中で、大学は、「専攻する学問分野に係る教科内容の履修とともに、教員免許制度上履修が必要とされている授業科目の単位修得等を通じて、教科指導、生徒指導等に関する「最小限必要な資質能力」(採用当初から学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力)を身に付けさせる過程」と位置づけられている。

※久留米大学非常勤講師 元県立高等学校長

しかし、上記答申は、いずれも中教審が考えた理想とする教師像である。教員をめざす学生がどのような理想とする教師像をもっているかについては言及していない。他方、教員をめざす学生は中高生として学校現場を体験した上で、断片的ながら理想とする教員像をもっている。したがって、大学における教員養成を、中高の学校現場を体験して構築した大学生の教職観及び教師像を把握したうえで実施するという高校大学間の接続を調整することにより、大学における教員養成はより円滑、効果的に行われると考える。

これまでの先行研究（注1～3）をみると、大学入学後、教職課程履修時の教職観の変化を辿るものが多く、中高の経験をへて構築された教育観・教師観を調査した研究はほとんど見られない。教職課程における学生の指導の際には、受講生が生徒だったとき、教育観、教師観がどのようにして構築されたかは、教師養成にはきわめて重要な資料となるものであり、履修カルテの構築においても十分考慮されるべきである。

2 調査の方法

(1) 調査対象

「教職実践研究」の受講生を対象とした。「教育実践研究」は、生徒指導に関する実践研究を目的として開講される教職の選択科目である。

講義において、受講生が中・高校生時の生徒指導に関する体験文を生徒指導テーマごとに記述させ、その体験文を個別に分析する。分析課題は、以下である。

- 1) 教師としての実践上の課題を探る。
- 2) その課題にもとづいてどのような実践指導をすべきか明らかにする。

講義テーマは、「中高生時の生徒指導体験（生徒指導上の一般的留意事項に関するもの）」、「基本的生活習慣を身につけさせる指導法」、「授業中の生徒指導」、「風紀指導について」などいくつかあるが、第1回目の課題文には「人間の在り方、生き方について及び私のめざす教師像（副題：生徒に対し、具体的職業ではなく、どのような人間性に育ってほしいか、そのために私はどのような教師をめざすか）」を設定している。

その理由は、これから実践的生徒指導を学ぶに当たり、とかくテクニク的な発想に陥ることのないようにしなければならないからである。ここでいう生徒指導は、狭義の生徒指導ではなく、授業を含め教育指導の全分野にまたがるものであり、教育指導の成果は、このような広義の生徒指導にかかっている。そして、広義の生徒指導は、教師と生徒が、教え、教えられる前に、まず一人の人間同士として対峙しており、人間的信頼感がなければ、成り立つものではない。そして、子どもの教師に対する人間的信頼感は畢竟、教師個人の価値観、人間観、人生観、世界観に深く関わっており、同時に教師個人の価値観等は、「生徒に対し、どのような人間性に育ってほしいか」という教育観にも直結し、「私のめざす教師像」はその基盤の上に成り立っている。

したがって、教職課程学生一人ひとりに、「人間の在り方生き方について」と「私のめざす教師像」を考えさせることにより、学生が自己の価値観、人間観、人生観、世界観を自覚し、その反射である教育観を確認し、その基礎の上に立った「めざす教師像」を構築し、そこに立脚して、これから実践的生徒指導法を思考し学習していくという本講義出発点としての意義がここにある。

(2) 調査対象者

平成 22 年度講義「教育実践研究」の受講者 131 名

(3) 調査方法

- 1) 課題を与えて、自由記述させた。
- 2) 課題のテーマ
「人間の在り方、生き方について及び私のめざす教師像」
- 3) 課題の指示
上記の課題を示すとともに、以下を具体的に記述するように明示した。
 - a どのような人間性に育ってほしいか。
 - b そのためにどのような教師をめざすか。

(4) 集計方法

- 1) 学生が自由に作文した中から、どのような「在り方、生き方」=あるべき人間像、生徒（教育）像、「私のめざす教師像」を重要視しているかを集計している。網羅的に準備した項目からアンケート形式で集計する方法と違い、現に学生自身が最重要と判断するものから記述しているはずである。
- 2) また、一つについて詳述したのもあれば、短文で多くを挙げているものもあるが、単純に集計している。
- 3) 教師像のものと人間像・生徒像のものが一致しているものが多いが、それは人間像・生徒像の中に算入している。

3 調査結果**(1) 回答項目**

回答者 131 名は各自 1～数項目を答え、項目総数は重複したものを含め 464 となっている。各項目は、内容により、「人間の在り方、生き方」と「私のめざす教師像」に大別し、更に、以下の通り①～⑩に分類した。

表 1 「人間の在り方・生き方」に関するもの

人間の在り方	①自己に関するもの	40	
	②他の人に関するもの	22	
	③自己に関するもの	79	
	④他の人に関するもの	人間の尊厳・思いやり・愛情・感謝	56
		コミュニケーション・協調・協力	61
		マナー・集団生活	17
	総計	275	

表2 「私のめざす教師像」に関するもの

⑤教師個人に関するもの	12
⑥対生徒に関するもの	46
⑦指導一般	33
⑧コミュニケーション・協調	44
⑨信頼	34
⑩教育内容・方法・部活動	24
	総計 193

(2) 各項目の分析

各項目への分析結果を示す。なお、※は資料の「受講生記述」の該当番号である。

①人間の在り方「主として、自己に関するもの」

a 言及が多かったもの

- | | |
|--------------|-------|
| ア 「素直さ」 | 11 項目 |
| イ 「モラル・倫理観等」 | 14 項目 |

b 内容の概要

人間の在り方について、正直、素直、我慢、元気、強い心と体、自律、責任、道徳等の項目が並んだ。「素直」は勉強や部活動の教師から、「力が伸長するためには「素直」であることが大事」、「素直な挨拶」等を日頃から指導されているためと推測できる^{※1}。モラル・道徳が最多となっているのは、学校でも、それが要求されるような現状が反映しているのであろう。

c 具体的記述

- ・正直に生きること、自分のやりたいことに正直であり、自分の心に正直であること
- ・自分の心に素直になる
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉をスッと出せる、そう感じるができる心
- ・我慢することの大切さを育てる
- ・集中するときと抜くとき、メリハリをつけることができる人
- ・授業の最初と最後のあいさつを徹底して元気のある人間を作り出していきたい
- ・強い心を養える人間性、時代と人に流されない強靱かつ穏やかな人間性
- ・自己を律することのできる人、規則をきちんと守れる人
- ・自発的に責任のとれる人間
- ・平等にフェアに生きる
- ・道徳教育が必要、倫理感に基づいた生き方ができる

②人間の在り方「主として、他の人に関するもの」

a 言及が多かったもの

「社会性・人間性」5、「迷惑をかけない」4、「寛大」4、「誠実」3、「ウソをつかない」3などとなっている。

b 内容の概要

円滑な人間関係を重視している。この点が現代の児童生徒にとって大きな課題であることが

読み取れる^{※2}.

c 具体的記述

- ・ウソをつかない生徒を育てる，教師も
- ・ウソをつかない生徒を育てる．間違っただけをしつらすぐに謝れる人間
- ・周囲の状況を把握して行動することができる人
- ・広い心，寛大な心．この世界には，接しやすい人，接しにくい人，苦手な人，話しやすい人など様々な人間がいるから
- ・失敗しても落ち込むのではなく，笑いに変えて前へ進む強い人間
- ・社会性・人間性．出会いを大切に，うまく関わっていくことで，その人の中身や性格が成長していく

③人間の生き方「主として，自己に対するもの」について

a 言及が多かったもの

ア「夢・目標・努力・向上心」21 が圧倒的に多い．ついで，イ「人に流されず独自の考えをしっかりと持つ」14，ウ「思考」9，エ「自主・実行力」6，オ「楽しむ」4 と続く．

b 内容の概要

担任による指導のほか，「総合的な学習の時間」を利用したキャリア教育，部活動顧問による指導等からア「夢・目標・努力・向上心」をもつよう熱心に指導されている結果だろう^{※3※3-2}．課題文の中には，「自己主張しない，できない」，間違っただけをしつら恐れる現状がある^{※4}．他方，イ「人に流されず…」と，エ「自主・実行力」はほぼ同義であり，合わせると20 となりかなり多い．人に流される現状にあらがう気持も強い．ウ「思考」^{※5※6}とオ「楽しむ」^{※7}が多いことは心強く感じる．

c 具体的記述

ア

- ・最近の子どもたちや若者は夢をあまり持っておらず，何かに夢中になっているということが少ない
- ・いつでも夢や目標をもち，それに向かって努力し続ける人間
- ・人は必ず意味があって生まれてきます．だから，人は夢を持ち目標をもって生きていくことが大切です
- ・自分が将来何がしたいかわからなくても，その時その時でとにかく何かを頑張っていれば，必ず見えてくるものがある
- ・最後まであきらめずやり遂げられる人間
- ・社会に出てもやっていけるように，すぐにあきらめず，何事にも取り組んでいく人間
- ・あきらめない，粘り強さを求めるために，部活に入る，または，個人目標をたてる

イ

- ・独自の意見や根拠に基づく自分の考えが持てる人間
- ・人に流されずしっかりと自分の考えを核に持ち，他の意見などを参考にしながら成長していく

ウ

- ・失敗や周りの人を恐れず，自ら率先して行動する人間

エ

- ・自ら考えて行動のできる人
- ・まずしっかりと考える力, 「考える」ということを教える
- ・常に考え続けることができる人間

オ

- ・人生を楽しむことが自分を成長させてきた
- ・部活動, 体育祭, 文化祭などを通じて, 仲間の大切さ, 仲間との経験を楽しむことで, 人は成長する

④人間の生き方について「主として, 他の人に対するもの」

A「人間の尊厳・思いやり・愛情・感謝」(人間関係)について

a 言及が多かったもの

「相手を思いやれる人間, 相手に優しく接する, 気遣う, 気配り, 感謝の念」²⁴と圧倒的に多い。「思いやりや譲り合う心があれば, いじめはなくなる」³, 「周りの人, 一人一人の個性を尊重し理解し受け入れる」³がつづく。

b 内容の概要

思いやり, 優しさ, 感謝等は極めて多く言及されている^{※8※9}。現代社会の自己中心的, 希薄な人間関係がうかがえる^{※10}一方, それに心を痛める現代若者の優しく繊細な心情が表れている。一人一人の存在価値, 思いやり, 協力, 他人を, 個性を認めることなど深い洞察がなされている^{※11}。

c 具体的記述

- ・感謝の心をもつ。親に反抗したり, 色々な欲が満たされるのが当たり前とっていたり, 子どもの犯罪も多くなった
- ・最近, 自分のことしか考えていない, 自分がよければいいといった考えの人が多く感じる
- ・自分中心に物事を考え, 世界を見るのではなく, 他の人の目線で物事を考え, 世界を見ていくことが大切
- ・生徒一人一人の存在価値とは, おもいやり, 協力, 他人を認めること。小中高でのいじめによる自殺者が増加している原因
- ・思いやりや譲り合う心があれば, いじめはなくなる
- ・他者への理解や尊敬の念の欠如は偏見を生み出す。現在の若者に見られる特徴の一つに「異なる価値観やグループなどを排除する」という一面があります
- ・相手を思いやれる人間, 相手に優しく接する。気遣う, 気配り, 感謝の念
- ・おもいやり行動を行ったりすることが円滑なコミュニケーションを生み出し, より良い人間関係をつくることにつながる
- ・人に優しく, 何事も肯定的に考えるべきで, 頭ごなしに怒るのはよくない
- ・周りの人, 一人ひとりの個性を尊重し理解し, 受け入れることのできる生徒に育てほしい
- ・人を尊重し, 人に優しい, 感謝できる人を育てたい
- ・感謝の気持ちをもつだけでなく, それを伝えられるようになってほしい。どんな人にもどんなことでも「ありがとう」「ごめんなさい」といえること
- ・思いやりの心, 心の痛みを理解する心, 譲り合う心

- ・相手の気持ちに立って考えることができる、思いやりのある、温かい心をもった人を育てたい
- ・人を愛し、人に愛される人間、自分を大事にできない人は他人も大事にできない
- ・人の心がわかる人間、他人にも優しくできる人間
- ・誰かが困っていれば手を差し伸べることができる人間
- ・一人ではなく、周りの人たちと助け合って生きていることに感謝
- ・人の気持ちを理解できる、理解しようとする気持ちを持つことの大切さ
- ・人に優しくすれば、いつかは自分に返ってくる
- ・どんなに頭が良くても、他人を大切にできなかったら、周りに批判されうわべだけの付き合いになる。近寄ろうとはほとんどの人が思わなくなる
- ・人が変わるには勇気があるし、人を変えるには大変な努力が必要である。気づかいをしている人はすばらしい

④B「コミュニケーション・協調・協力」について

a 言及の多いもの

「コミュニケーション能力を身につける。コミュニケーションをうまくとれる人間」12、「人との関わりを大切にする」7、「人は助け合い協力しなければ、一人では生きていけない」6、「協調心、協力心」6、「寛大な心を持ち、人と人とのコミュニケーションを大事にする人間性」5となっている。

b 内容の概要

コミュニケーションが薄くなり、人間関係が脆弱化している現状からの脱却の必要性を訴えている^{*12~*15}。具体的記述を現状、原因、効果等に並べ替えると、以下ようになる。生徒の目から見ているが、その深刻度がうかがえる。

c 具体的記述

現状

- ・人とうまく話せない人や団体行動が苦手な人が増えてきている
- ・コミュニケーション不足により他人との協力性や集団行動がとれない子どもが増えている
- ・教育実習のとき、先生から「今の子どもはコミュニケーション力が少ないので、たくさん話を聞いてあげて」と言われた

原因

- ・コミュニケーション不足の原因は、家の中での一人でのテレビゲームなどが大きな原因

効果・目的

- ・人は助け合い、協力しなければ、一人では生きていけない
- ・人と人は体力的にも精神的にもお互いが支え合って生きていくことができる
- ・人を大切にすると、社会の中で、自分の居場所や、主張するとき、また苦しいときに大きな力となる
- ・他人とのかかわりの中で人は成長するので、周りの人を思いやって、刺激し合っていくことが大切
- ・自分の考えを他の人に伝えることはとても大切なことで、また、他の人の意見を聞くこともとても大切、自分の視野や世界観が広がる
- ・社会に出たとき、周りの人とぶつからないようにするための方法を知っている人間

方法・心構え

- ・友人との交流や先輩後輩の交流を大切にし、その中で支え合いの大切さを学んでもらいたい
- ・色々な価値観を持っている生徒がいることを知る
- ・小さいときから回りの人と関わり、お互いの意見を聞き、皆で多くの挑戦をし、多くの経験を積んでほしい
- ・人との関わりを大切にする。地域との関わりを大事にする
- ・人と人とのつながりを実感させ大切に作る人間
- ・寛大な心を持ち、人と人とのコミュニケーションを大事にする人間性
- ・協調心、協力心
- ・周囲としっかり交わり、協調し合える人間
- ・生徒同士、教師と生徒が交流し、思いやり、協力し合う関係を育てる
- ・コミュニケーション能力を身につける。コミュニケーションをうまくとれる人間
- ・他人の意見を大切にすると同時に、自分の意見も大切に作る
- ・他人を大切にし、人の話をきちんと聞ける人、受け入れることができる人
- ・他人を大切にし、自分も大切にできる人
- ・人の話をきちんと聞ける人、自分が話すだけでなく
- ・自己主張ができる人間性をもった生徒、人の立場になって考えることができる人間
- ・自分の行動に自信を持てる人間、他人の意見もはっきり受け入れることができる人間

④C「マナー・集団生活」について

a 言及が多いもの

「挨拶や言葉遣いなどの社会的マナー、教師や目上の人への敬意を払うなど」8、部活動を通じた「人間形成」1、「マナー」1、「コミュニケーション」1など。

b 具体的内容

マナーの社会生活の中で重要性^{*16}のほか、部活動が人間性・社会性を培う上で、極めて大きな効果があることを訴えている^{*15*17}。人間関係能力を回復する試みとなっているように感じられる。

c 具体的記述

- ・挨拶や言葉遣いなどの社会的マナー、教師や目上の人への敬意を払うなど
- ・人として最低限のマナー（礼儀やあいさつなど）、思いやる心
- ・当たり前前が当たり前前ができる
- ・挨拶、靴を脱いだら揃える、人の話は目を見て聞くなど
- ・先輩を見て大きな声で挨拶ができるようになったが、社会に出て一生使えるものであることに気付いた
- ・挨拶は習慣づけておかないとできないもの
- ・集団生活の大切さを身につける
- ・お互いを支えるクラスづくり
- ・部活動を通じて、人と関わることのすばらしさを学び、人間として成長できた。人生を変えてもらった
- ・人間関係や人格形成といったものを築いて、社会人となったときにその経験が生かせればよい

- ・剣道を通じて、挨拶など当たり前のことを当たり前にできること、靴を脱いだら揃える、人の話は目を見て聞くなど
- ・部活動はコミュニケーションをとりやすいので、文武両道をめざしてほしい

「私のめざす教師像」に関するものは、「対生徒に関するもの」46, 「コミュニケーション・協調」44, 「信頼」34, 「指導一般」33が多く、ついで、「教育内容・部活動」24, 「教師個人に関するもの」12となっている。

⑤「教師個人に関するもの」について

a 言及が多いもの

「教師個人」への言及は相対的に多くない。まだ経験がないからだろう。「確固たる信念とアイデンティティを持った教師」2と、「楽しみながら教師を勤めたい」2以外はそれぞれ1となっており、各項目とも大差はない。

b 内容の概要

教師としての誇り・志、信念とアイデンティティ、マナー、モラル、探究心、広い心、社会性、自身の学力・伝達力・指導力など教師に必要なものが網羅的に列挙しており、心強い。

c 具体的記述

- ・教師という職業に誇りと強い志をもつ
- ・確固たる信念とアイデンティティを持った教師
- ・最低限のマナーとモラル
- ・個性
- ・常に好奇心を持ち探究心を忘れない教師、相手の立場になって物事を考え行動できる教師として
- ・向上心、社会性、広い心をもった教師
- ・前向きに生きる
- ・人に優しく、自分には厳しく
- ・楽しみながら教師を勤めたい
- ・自身の学力、伝達力、指導力の向上に努める

⑥「対生徒に関するもの」について

a 言及が多いもの

「一人ひとりへの気配り」13, 「一人ひとりへの支援」8, 「教師も間違えたときは素直に認め直していく」5, 「平等に接する、えこひいきしない」4と続く。

b 内容の概要

「生徒一人一人」への細かい対応^{*18}、個性、長所の伸長など広い観点から挙げている。生徒が最も求めていることの一つである。とかく、勉強ができる生徒、苦手な生徒への指導が多くなり、サイレント・マジョリティへの対応が少なくなりがちな状況に警鐘を鳴らしているが、毎日仕事に追われている教師には特に心に留めるべきことである。「えこひいきしない」は、誤解も多く、このことにも教師は十分注意を払うべきである。そのほかにも、「生徒」を卒業して間もない時期であり、教師には参考となる貴重な提言をしている。

c 具体的記述

- ・率先して教師から生徒に挨拶する
- ・生徒からの返事の挨拶によって、その生徒の今の心情を感じとり相談にのったり、いじめの早期発見にも気づくことができる
- ・教師も間違えたときは素直に認め直していく、教師が自ら「ありがとう」という
- ・資質を発見
- ・生徒は各自が能力や才能を持っており、それをひらめかすことが最も大きな仕事
- ・生徒の夢を後押しできる教師
- ・世界で今日あった歴史的なことを知らせたり、「今日頑張ったこと」を毎日数人ずつに発表させるなど
- ・生徒一人一人に気を配り、個性を見つけ出し、それをいい方向に育てていける教師
- ・生徒一人一人の尊重
- ・一人ひとり必要なサポート、ニーズに合わせた教育的支援をしていく
- ・一人一人に合った接し方で、生徒と向き合いたい
- ・平等に接する、えこひいきしない、うまくいかない生徒だからといって、ほったらかしにしてはいけない
- ・特別扱いせず、障害を持っている人でさえも同じように接する教師
- ・広い視野から生徒を観察、細かなクラスの変化、生徒の変化を察知することのできる教師
- ・早め早めの対応を
- ・生徒を頑張らせる雰囲気づくり、資格取得のための勉強や課外が本当に楽しく、生徒自らたくさんすることにチャレンジしていくような学校づくり
- ・多くの経験を伝える
- ・生徒一人ひとりへの心理的ケア
- ・生徒とのよい人間関係が前提、授業や生徒の指導のとき、嫌いな教師からいわれると反発したくなる
- ・先生と生徒である前に人間としての「関係づくり」が必要。子どもに授業に対し意欲的にさせ、子どもが先生に話しやすい環境をつくるには

⑦「指導一般」について

a 言及が多いもの

「教師目線だけでなく、生徒目線でも対応する教師」4、「教師と生徒との関係・礼儀を守る」4、「生徒とともに成長できる教師」4、「介入しすぎず、でも向き合う教師」2、「生徒の考えや思いを尊重する教師」2、「卒業後も、自分の力で生きていける力をつける教師」2、「的確に、わかりやすく生徒に伝える教師」2となっている。

b 内容の概要

生徒を指導する上での心構え・視点を挙げているが、一つ一つが貴重な教訓を含んでいる。特に、「生徒目線」で、というものが多いが^{*19}、現代の特徴であろう。「筋が通った」「メリハリをつけた指導」「礼儀を守る」等は従来通りである。生徒が動くのをサポートすることが教師の役割であり、介入しすぎないようにする^{*20}のがベストであるが、状況により変わることもありうるだろう。

c 具体的記述

- ・筋が通った指導, 人として自分の意見を曲げない, 一本筋が通った教師
- ・優しく楽しく生徒と接する中にも, ときには厳しく叱れる教師, 友達感覚で接しない教師.
- ・矛盾のあることは言わない
- ・誠実で柔軟に対応する
- ・生徒を支え導く教師, 敬われる存在だけでなく, 生徒を支え, 導くリーダーシップを発揮できる教師
- ・メリハリをつけた指導
- ・生徒目線も, 教師からの目線だけでなく, 生徒の目線でも対応する教師
- ・一人の人間として, 同じ目線で物事を考え, 何事に対しても本心で正面からぶつかっていくことが大切
- ・クラスで遊ぶとき生徒と同じように楽しめる教師
- ・同じ目線に立つことにより, 生徒の良い点, 悪い点, 小さな変化も早く見つけることができる
- ・教師と生徒との関係, 礼儀をまもる
- ・的確さ, わかりやすさ, 的確にわかりやすく生徒に伝える. 矛盾したことを言わない
- ・実践できる, 口だけでなく, 言うだけでなく, 実践できる教師-ありがとう, ごめんなさいを言える
- ・生徒と一緒に考え, 一緒に笑い, 一緒に物事を達成できる, また生徒がそうなりたいと願うような教師
- ・生徒と共に成長できる. 生徒とともに日々成長していく教師
- ・生徒をサポートする教師, クラスを動かすのは生徒であり, 教師は発表できる環境や助けを求められる環境をつくるなどサポートする役目がある
- ・生徒の交友関係を把握する
- ・介入しすぎず, でも向き合う教師. 怒鳴りつけることはほとんどなく, 問題と私たちを向き合わせ, 私たちをバックアップし, 考えさせて, 乗り越えさせた
- ・生徒の考えや思いを尊重する教師. 生徒の声を第一に聞き, それを授業やそれ以外のものに生かすこと
- ・卒業後も自分の力で生きていける人間. 生徒が壁にぶつかったとき, その答えを教えるのではなく, 答えにたどりつくヒントを与える

⑧「教師のコミュニケーション・協調」について

a 言及が多いもの

「十分に話を聞き, 話をしてくれる」10, 「寛大な心をもって生徒に接する」4, 「何事も生徒に二歩進んだ指導を」4, 「挨拶のできる教師」3, 「友人関係を把握し, 気楽に相談してもらえるように, 日常的にコミュニケーションをとる教師」3, 「コミュニケーションをとれる教師, コミュニケーション能力を育てる教師」2, 「心を生徒とシェアできる教師」2と続く.

b 内容の概要

教師のリーダーシップへの強い期待がうかがえる^{*21}. 教師への期待は大きい.

c 具体的記述

- ・生徒の模範となる教師

- ・率先したトイレ掃除，服装にも生徒を指導できる模範的な服装を，何事も生徒に二歩進んだ指導を。
- ・十分に話を聞き，話をしてくれる
- ・生徒を受け入れるだけの大きな器
- ・生徒の模範となる教師
- ・挨拶のできる教師
- ・友人関係を把握し，気軽に相談してもらえるように，日常的にコミュニケーションをとる
- ・コミュニケーションをとれる教師，コミュニケーション能力を育てる教師
- ・生徒の悩みや話をしっかり聞き，生徒自身が考えながら前に進めるような助言ができる教師
- ・面談，交換ノート，休み時間一緒に遊ぶなどのコミュニケーション方法
- ・心優しく関わっていき，どんなことにも負けない強い心を持って生きていけるようなことを教えたい
- ・心を生徒とシェアできる教師，まず教師自身が心を開く

⑨「信頼」について

a 言及の多いもの

「信頼される，慕われる教師」12，「生徒の手本となり目標となる教師」10，「生徒を信じられる教師」2，以下は様々である。

b 内容の概要

「手本となる教師」^{※22※23}のほか，「生徒の質問や不満を絶対に聞き流すと生徒から信頼を失う」ことなど，教師への期待は大きい。忙しい教師への警鐘を示している。

c 具体的記述

- ・人間として頼れる存在。教師としてではなく，人間として頼れる存在として，生徒の前に立ちたい
- ・信頼される，慕われる。生徒に信頼され慕われる教師。信頼できない教師の話は生徒は・聞きたいとは思わない
- ・生徒を信じられる教師
- ・責任感をもった教師
- ・生徒の質問や不満を絶対に聞き流していけない
- ・生徒の手本となり目標となる教師
- ・ボランティア活動を通して，自己中心的な心を誰かの役に立ちたいという心に変えたい
- ・生徒に頑張っている姿をみせると，生徒もがんばる
- ・生徒に好かれる教師
- ・生徒に感謝される教師
- ・次世代の教師を育てられる教師
- ・共感。生徒と一緒に泣くことができる教師
- ・勉強面だけでなく，部活動の指導により，生活面や人間性の面でも指導できる教師をめざしたい

⑩「教育内容・方法」について

a 言及が多いもの

「基礎基本の着実な定着」2, 「「学ぶ」ことの深い意味を生徒自身に, 生徒自身の力によって探究させるような, 未来に羽ばたく生徒の足場となれる教師」2, 「人間が平等になるということについて考えさせたい」2, など

b 内容の概要

「命の大切さ」, 「助け合い」, 「基礎基本」, 「日本への誇り」, 「戦争や差別がいけないこと」等々広い観点から挙げている。「学ぶ」ことの意味^{*24}を生徒に理解させたいという根源的な問題の指摘もある。グループワークの効果にも着眼^{*25}。

c 具体的記述

- ・命の大切さ
- ・命の尊さを教える教師
- ・助け合いの大切さを教える
- ・基礎基本の着実な定着
- ・「生きる力」を育成するため, 基礎基本的な知識, 理解を教える。表現力を育成する
- ・勉強の意義・理由。勉強しなければならない理由を生徒にしっかり提示できる教師
- ・「学ぶ」ことの深い意味を生徒自身に, 生徒自身の力によって探究させるような, 未来に羽ばたく生徒の足場となれる教師
- ・人は社会に組み込まれており, そのため社会の仕組み, 経済, 企業などを知る必要があること
- ・失敗, 経験。失敗の例を示せる教師, 多くの経験を生徒に伝えることにより視野や世界観を広げたい
- ・表現力育成。表現力を育成するため, グループ学習をとりいれる
- ・戦争や差別。戦争の悲惨さや差別のいけないことを生徒に伝えたい
- ・興味関心。興味・関心を持たせる授業
- ・「福祉」の授業を通じて, 「思いやりの心」「優しさ」を教えてあげたい
- ・世界に目を向けてもらう授業
- ・平等, フェア。人間が平等になるということについて考えさせたい
- ・日本への誇り
- ・自分の考え方以外に, もっと多くの違う考え方や個性があり, それを受け止める大きな心を持った人
- ・生徒と一緒に授業をつくることができる教師。協同する授業は, 意見交換などにより視野が広がり, 仲間と学ぶことにより知識や技術に理解が深まる
- ・一人ひとりの資質を見極めることのできる教師。生徒に考えさせる授業, 生徒主体となるグループワーク等は一人ひとりの個性が発揮される
- ・授業中の発言などが積極的にしやすい雰囲気づくり

4 考察

上記教職課程学生の回答から, 教職観, すなわち, 学生が将来, 教師になったとき, 生徒をどのような人間性に育てようとしているのか(教育観), そして, そのような生徒を育てるために, どのような教師になることをめざしているのか(教師観)をまとめてみると, 以下のとおりである。

教育観については、内面では、まず素直な生徒そして、正直で我慢強く、自律と責任、道徳・倫理観をもつ人間である。そして、周囲の状況を把握して行動し、対人関係を円滑に行える社会性があり、寛大、誠実で、ウソをつかず、人に迷惑をかけない、失敗しても笑いに変える強い人間性である。

そして、夢や目標を掲げ、粘り強く努力していく向上心を持ち、人に流されず独自の考えを持ち、失敗や周りの人を恐れることなく、常に考えながら努力し、率先して行動する人間である。また、部活動や、体育祭、文化祭などを通じて、仲間の大切さや仲間との経験を楽しむことで成長していく人間である。

人間の生き方について、多くの項目が出されているのは「人間の尊厳・思いやり・愛情・感謝」という人間関係に関するものである。一人ひとりの存在価値や個性を認め、受け入れる。他者に感謝の心を持ち、思いやり、譲り合い、気遣い、気配りし、優しく、温かい心で接する。背景には、自己中心的に考え、他人目線で考えない人がいること、異なる価値観やグループを排除する傾向、いじめ、少年犯罪の発生などが指摘されている。しかし、感謝の心、優しい心、思いやりの心などがないと、人が遠ざかり孤立すること、「情けは人のためならず」、人が変わるには大変な努力がいることも述べている。

最多の項目は、「コミュニケーション・協調・協力」である。人とうまく話せない人や協力ができない人、団体行動が苦手な人が増えてきている。原因としては、家で一人でテレビゲームなどで遊ぶことが多いことが指摘されているが、様々な原因が考えられるが深刻な問題である。人は助け合い協力しなければ生きていけない、人との関わり合いの中で人は成長する、人の話を聞くことで視野や世界観が広がるなどその重要性が述べられている。人の話をきちんと聞ける人、人の話を受け入れることができる人、コミュニケーションを大事にする、協調心・協力心を持つこと、人との関わりを大切にすること、友人や先輩後輩、教師との交流やコミュニケーション能力を身につける。究極的には、小さいときから周りの人と関わり、お互いの意見を聞き、皆で多くの挑戦をすることの大切さを指摘している。この点の不足が、コミュニケーション力不足の根本的原因であろうが、少子化・核家族化の状況の下で、学校だけでなく社会的な取り組みが必要ということだろう。挨拶などのマナーも人間関係には極めて重要であると答えているが、習慣づけておかないとできないものであるだけに、家庭のしつけや部活動などで取り組むことの大切さを指摘している。

以上が、どのような人間性に育てたいかという教育観である。

以上の教育像を目標にして、あるべき教師像について、つぎのように答えている。

まず、教えるべき教師自身について、教職への誇りと立派な生徒を育てるという使命感・志、マナー・モラルのほか、自分に厳しく、広い心で、また、学力・伝達力・指導力等の向上をあげている。「教員の資質能力の向上方策等について」（上述の答申）に通じるものがある。対生徒については、生徒一人ひとりへの細かい対応を述べている。生徒一人ひとりへの目配り、アンテナを張る、接し方、サポート、心理的ケア、個性や長所を発見し伸ばしていく、平等に接するなど、要望は多い。これだけの理解を示しているのだから、あとは教師になったときは、具体的な取り組みにかかっているだけである。わかるように指導するのは大変だが、わかった上で具体的な取り組みについて考えさせることは、比べて容易である。

指導する上での留意点は、教師目線だけでなく、ときには生徒目線も大事である。命令するのではなく、介入しすぎず、サポートに徹する。主役は生徒であることを自覚しておく。誠実

かつ柔軟に、教師と生徒との関係は守りながら、生徒と接する。しかし、指導する上で一本筋が通った教師など、生徒の考えや思いを大事にするなど、学生はよく理解している。

教師と生徒のコミュニケーション・協調についても、要望が多い。生徒と十分に話をし、十分に話を聞いてくれる教師、生徒の悩みは話をしっかり聞いてくれる、生徒の友人関係を把握しておく、日常的なコミュニケーション、生徒と心をシェアできる、生徒を指導できる率先垂範、身なりなどにも述べている。生徒が教師に求めるコミュニケーションへの要望はとても熱いことをよく承知している。

生徒から信頼されることは教師には不可欠であるが、そのためには人間として頼られる存在、生徒を信じることができる教師、質問や不満にはしっかり答える、生徒にがんばっている姿を見せる、生徒と一緒に泣くことができる教師など多い。信頼が長い接触から生じることを考えると、学生が答えているように、部活動が果たす役割は大きい。

教育内容・方法については、勉強することの意味・意義を理解させる。基礎基本を理解させる、興味関心を持たせる授業のほか、生徒に考えさせる授業、生徒に表現力をつけさせる、生徒への伝達力のほか、日本への誇り、世界に目を向けさせる授業など心強い。

以上が、どのような教師をめざすかという教師観である。

以上の教職観（教育観、教師観）から見えてきた課題は、次の通り。

- 1 人間関係能力を豊かにし、コミュニケーション能力を高める取り組みが必要であること。
- 2 そのためには、クラスでの取り組みのほか、部活動や、運動会、文化祭など集団活動等を盛んにするなどの方策をとること。
- 3 生徒一人ひとりへの細かい対応をとり、十分にコミュニケーションを図ること。
- 4 教師の指導力を発揮し、生徒のサポートに徹すること。

以上の点を、教職課程の中で考察し対策を取り入れて、教師養成を行うことが肝要である。

注

1. 松本良夫・生駒俊樹 1984 『「教員養成大学」学生の進路希望と教職観』東京学芸大学紀要、1 部門、35、63-75.
2. 白井 博 1996 「教育大生の教職観：教師との交流、教職志望動機、教育実習経験との関連性を中心に」北海道教育大学教育実践研究指導センター紀要、15、179-191.
3. 前田一男他 2008 「教師志望学生の教職観の形成過程に関する追跡調査研究—立教大学を事例として—」（立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）研究【経過・成果】報告書）

資料 受講生記述

※1 私は素直さという言葉は、中学、高校在学時に何度も言われていた。先生や親、先輩、友だちなど、私たちの周りにはアドバイスをくれる人、励ましの言葉をかけてくれる人など、多くの人たちがいる。それらの人々は、自分自身の在り方によって、重要性が変わり、存在の大きさに変化が出てくる。私はどんな言葉でも受け止め、それを踏まえて考え行動できる人になってほしいと考える。

※2 良い大学や良い企業に勤めることも大切ではあるが、どこに出してもおかしくない人格や人間性をもった生徒を送り出すことのできる教師になりたい。

※3 私は、生徒に夢に向かって努力する人間、一日一日を大切に作る人間になってほしいと思っています。中学、高校のときというのは、ただ毎日を過ごすという人が多いように思います。部活でも勉強でも友だちとのおしゃべりでも、今日、学校に来て何かを得たという心をもってほしいなと思います。大人になっても、その経験が生かされると思うからです。たとえば、「私は大会に出れるようにがんばった」という思い出があれば、社会に出たとき、「あのとき頑張れたんだから、今もできるはずだ」と自らを奮い立たせていやなことや苦しいことを乗り越える手助けになると思います。

※3-2 最近の子どもたちや若者は夢をあまり持っておらず、何かに夢中になっているということが少ない。そのような生徒たちに逢ったら、何かしら一緒にがんばれる、努力をするものを見つけて、毎日を充実して過ごせるように手伝っていきたいと思う。まず、生徒や子どもたちは大人や教師を見ながら学んでいき、まねをしたりするので、私自身、本気で取り組めることを見つけ、努力をしていかねばならないと思う。努力することに加え、私は生徒たちに、人々から信頼されるような人になってほしい。

※4 私が小中高時代、自分の意見を発表するときに、周りで友人と話し合っ、それで自分もその友人と同じ意見を発表するという人が、結構見られた。確かに自分だけ人と違う意見を発表して恥ずかしいということもあるだろう。自分もそういう経験があるので十分理解できる。しかし、それで自分というものはどこへ行ってしまうのだろうか？発表はしたほうが自分の考えて悩んで出した回答ではない。表面上出した回答でしかない。それで果たして自分は成長できるだろうか。つぎに素直であってほしい。意地っ張り、なかなか自分の気持ちを人に正直に言えない。相手の反応が気になって言えない、という人も多いだろう。しかし、自分の気持ち、考えを正直に表に出すことによって、見えないものが見え、新しいものを得ることができる場合もある。出さないと何も変わらない。変化がない。すぐにそうなることは難しいと思うが、徐々にそうなってほしい。

※5 例としてスポーツをとりあげましたが、日常生活、学校生活でも、この考える力でだいぶ変わってきます。毎日の学校生活を何も考えずにただ送るだけか、それとも一日一日、一つ一つの行動に「これでよかったか」「もう少しいい方法がなかったか」など考えながら、学校生活を送るか、ちょっとした考え方、意識の持ち方の違いで変わります。

※6 今の子どもたちは、親や先生に指示、命令をされすぎであり、それをされないと行動ができないような環境になっており、そのような体質になっている。このことにより、自ら考え行動し、生活していく心をつぶされかけていると考える。コミュニケーションをとる際に、自ら考え行動することが大切なことであり、時間がかかってもいいので、生徒に考える時間を与え、自発的に行動することをめざしていきたい。人の考えは多種多様で、同じ考えの人はいないので、各個人がそれぞれの考えをきちんともち、それを互いに言いあえる環境を作り出すことによって、自分にはない相手の考えを知ることができ、なぜその答えに相手がたどり着いたのか

という疑問が生まれ、他人に興味をもち、積極的にコミュニケーションをとろうとする力を養うことができる。この連鎖が生まれてくると考える。この連鎖を生み出すための環境づくりを第一とし、他人とコミュニケーションをとり、他人を思いやり、他人を尊重することができるようになれば、いじめなどの問題が起こることが少なくなり、「生徒が楽しい学校づくり」をつくることができると思う。

※7 私は、人間の在り方、生き方は人生を楽しむことにあると思う。それは私が今まで生きてきた中で、楽しむことが自分を成長していくことにつながっているからだ。もちろん、楽しむことは単に楽しいことだけではなく、何か目標を達成したり、辛いことを乗り越えていくことも含まれる。一番わかりやすいと思う例は、中学高校での部活動だ。部活動することで仲間ができ、仲間と同じ目標にむけ練習する。その仲間が時にはライバルになることがあるが、一生懸命やっていることには変わりはない。そして、その仲間と練習をともにすることで絆が生まれてくる。辛いとき、苦しいとき、その時の仲間の存在は大きく、自分の人生の中で大きく影響する。そして、その経験をした中で、何年後、何十年後かに思いだしたとき、楽しかったと思えるようになると思う。

※8 部活動で学ぶ上下関係は、下っ端扱いという考えから、先輩の優しさや指導により、先輩方の支えになりたいという考えに変わった。高校受験前には、一緒に勉強をし、わからないところがあればわかるまで教えてくれる友人がいた。支えというのは、自分のスキルアップにもつながるけれど、それ以上に人の温かさを一番に感じるものであると思う。一人ではない、一緒にがんばろうと思うのではないだろうか。

… 小さな支えもたくさん経験した。シャーペンの芯がなくなれば、気づいた友人が芯をくれたり、黒板がみえなければ、ノートを貸してくれたり…。当たり前のことを当たり前と思わないよう、様々なことに気づき、生徒たちの前で、「こんな優しさを発見したよ」ということを発表したいと思う。どんな小さな優しさでも、皆が当たり前だと思うことでも、心の中に少しでも優しい気持ちが残るように指導したい。

※9 子どもの頃は親や先生に私自身、素直に感謝の気持ちを伝えることが出来ていなかったので後悔しています。やはり一人ではなく周りの人たちと助け合って生きているので、自分の生徒には少しでもそのことに気づき感謝し、「ありがとう」と素直に伝えることのできる人になってほしいです。

※10 今の子どもは、素直な子が少なくなっているような気がする。親に反抗したり、色々な欲が満たされるのが当たり前と思っていたり、子どもの犯罪が多くなった。これらの原因は、やはり、“自己主義”な考え方をする子どもが多いからではないだろうか。

※11 自分の考えも大切にしながら、他人の意見も受け入れていく力を身につけられるよう教育をしたいです。私は中学生の頃まではそれがなかなか出来ていませんでした。高校生になってどうしても自分と合わないと思ったときに、「こんな考えもある」とふっと思えました。そう考えるようになってから、言い方は悪いですが、嫌いな人が出来にくくなったと思います。他人の意見を受け入れるところは受け入れ、時には聞き流すくらいの気持ちで自分のことを大切

にしてほしいです。

※12 自分の考えを他の人に伝えることはとても大切で、また、他の人の意見を聞くこともとても大切なことなのです。多くの人の考えを知ることで、自分の視野や世界観が大きく広がることに気づきました。また、自分の意見が認められることで自信が付き、否定されて間違いに気づくのです。生徒には中学生、高校生という大事な時期に多くのことを発信し、多くのことを吸収してほしいです。ときにはケンカも必要です。自分の思っていることをすべて相手にぶつけて、相手の思いを受け入れることができれば、人の気持ちのわかる人間になってくれると思います。自分の殻に閉じこもっている生徒がいるようであれば、自分の経験したこと、気づいたことをもとにアドバイスをし、中身のある人間に成長させてあげたいと思います。

※13 私も学校生活という集団生活の中で、人とのコミュニケーションの難しさに悩んで苦しんだ時期がありました。いつも親から「やさしくするだけでは本当のやさしさではない。人の気持ちがわかる人間になればきっと困ったときにみんなが助けてくれる」と言われていた。今、考えてみて本当にそうだと思う。人の気持ちがわかれば人から信頼されている人が多い。

※14 人と上手く関わっていくことができない、人の接し方がわからないという、いわゆるコミュニケーションというの難しいことではなく、小さいころから常に周りの人たちと、少しのことでも、たった一言の挨拶でもきちんと行っていれば、コミュニケーション能力が落ちていくという事態には陥らないと思います。

※15 自分は人間性を育てる要因として、好きなもの、特にスポーツなどにうちこむことが大きな要因になると考えています。自分自身、今までずっと陸上を本気でしてきて、それまでは他人と関わり合うことも好きではなかったし、教師のことも全く好きになれないのですが、中学の時から自分を陸上に誘ってくれた先生がいて、最初はとまどいながらだったのですが、きつい練習を通じて、同じ汗を流した人たちを「仲間」と思えるようになってから、人と関わることのすばらしさを学ぶことができました。また、1つのものにうちこむこと、好きなものに熱中することがこんなに楽しいものなのかと思えるようになりました。人と人は何も無いところで、いきなり仲良くなれと、関わり合えと言われたって、なかなかうまくいかないと思います。しかし、お互いの好きなもの、共通して打ち込めるものを見つけてあげれば、お互いの個性や、良いところも悪いところも出てきて通じ合うことができるのではないかと信じています。それが自分の場合は陸上だったわけです。陸上と出会ってから、自分は人間として成長できたと思うし、人生を変えてもらったと言っても過言ではありません。中学のときに初めて陸上を教えてくれた先生は今でも自分のあこがれであり、理想とする教師像でもあります。

※16 高校に入学すると、校訓に「挨拶日本一」というものがあり、自ら挨拶をする先輩方の堂々とした姿勢に私は惚れて始めたことをきっかけに、学校中大きな声で挨拶することが自然にできるようになり、これは社会に出て、一生つかえるものであると気づいたからである。…挨拶というものは習慣づけておかないとなかなかできないものである。なので、社会に出る前に、私は自ら挨拶できるようになってほしいと願う。

※17 学生の仕事は勉強することであるが、勉強だけではなく、クラブ活動などを通じて、人間関係や人格形成といったものを築いて、社会人になったときに、その経験を活かすようにすればいいと思っている。私がそう思うのも、私が教員をめざすきっかけをつくってくれたのも、高校のときのクラブ活動の顧問の先生の存在があったからである。

※18 先生に求められていることは、生徒のことにアンテナを張り、一人ひとりを見てあげ、安心感を得てもらい、しっかりと信頼関係を築くことである。クラスの生徒の中には、社会的でクラスを中心となっている子もいれば、その陰に隠れ、一人でポツンとしている子もいるかもしれない。そのような生徒を、ただ「一人が好きなのかな」ととらえるか、「本当はみんなの中に入りたいのかな」ととらえることで、その生徒の今後に大きな差が出てくる。目立つ存在の子と同じくらい目立たない存在の子のこともしっかりみつめ、クラスの生徒のことを把握することが大切である。

※19 私は高校という時期は、人生の選択をする時期だと考えている。それは、大学や短大など学問に進んだり就職したりと、今後の人生に大きく関わる選択が必要になるからである。そのため、そのような大切な時期は、生徒は大きな悩みを抱えたりと不安定な時期にあたるため、生徒の目線に立ち、小さな変化も気づいてあげられるようになること。また、色々な悩みなどを話しやすいような明るくてけじめのあるような教師になりたい。

※20 私は、介入しすぎず、でも向き合う教師でなければならないと思う。そのためには先生と生徒である前に人間としての「関係づくり」が必要だと思う。しかし、子どもを授業に対して意欲的にさせ、さらに子どもが先生に話しやすい環境をつくるか、甘やかすのではなく、「先生と生徒という関係を持ったうえで、どうやって子どもの心を開かせるかがポイントだと思う。特に、中学生は反抗的である。しかし、それは「学校の先生」という観念にいれるからである。しかし、たまに、その「先生」の枠には入れているが、信頼できる先生がいた。その先生は上から怒鳴りつけることはほとんどなく、そのかわり、問題と私たちを向き合わせ、私たちに考えさせた。私たちが解決できる問題は私たちに直接解決させ、その中で私が助けを求めても、直接入ってくることはなかった。私たち自身の力を信じてくれたし、私たちも乗り越えることで自分自身の知らなかったことを発見することができた。だから、私は一人ひとりを信じ、バックアップしながらも、向き合える教師になりたい。

※21 生徒の手本となる行動をする教師をめざす。たとえば、学校の掃除をするとき自ら進んで掃除をする。教師は何もせずに、生徒にだけ「きちんと掃除をしなさい」と言うのは、生徒側からすれば「先生は命令するだけで何もしないのか」と腹が立つ。しかし、教師自ら進んですると、生徒は「先生もやっているから、仕方ないか」と思って掃除を始めると思う。服装指導のときは、生徒は制服を着ているわけだから、教師もそれに応じた服装をする。何事も生徒より二歩進んだ行動をし、生徒に色々なことを教えたり、指導できるようになりたい。

※22 そして、もう一つはボランティア精神を身につけてほしいです。これは僕が中学1年生のときの話ですが、当時僕は自己中心的な考えを持っていました。当時の僕のクラスの副担任の先生は、その先生には全く関係なく、利益のないことなのに、いつも他人のために何かをし

ていました。その先生のそんな姿を見て僕は心を動かされました。そして、自分には関係ないけど、誰かの役に立ちたいという心が生まれました。

※23 子どもは15年近く学校に通う。学校では、教師という存在は両親よりも重要な存在であると私は考えている。学校では登校から下校まで約10時間程度いることになる。家で両親と過ごす時間よりもはるかに長いのである。成長していく過程で、人とのコミュニケーションは大切である。そう考えたとき私は、教師は子どもの成長に一番関わっていくのではないかとと思う。「あの先生みたいになりたい」そのように生徒たちから思われるような教師になりたい。…そして、「あの時、先生がいてくれたから今の私がいる」そう言ってもらえるような教師になりたい。私は無限の樹形図の一角になりたい。常に下に伸びていくそんな樹形図のあり得ない話をするが、たとえば私が日本一の教師になったとする。しかし、私が能力的にすばらしくても、私を支えてくれるような後を継ぐ人がいなくてはそれまでである。次世代を動かしていくのは私ではなく次世代の人である。そんな次世代の人を育てるそのような教育者でありたい。

※24 今日、ゆとり教育により学力低下、勉強時間の減少を中心に問題が挙げられており、各学校でもそれに対する対策を行い、偏った形になっている。生徒自身も、学力インフレの中、意味を見いだせないまま、何となく進学をし、何故、無意味な強制の中で、しかも学校システム自体の差別の対象にしなければならないのかと疑問を抱いている。つまり、生徒たちは根本的に、何故、勉強するのか、しなければならぬのか、そこを見いだせていない。気づかない生徒だけでなく、しっかりと問題を提示しない教師側にもある。…個性を強調することも大事であるが、…、個性を極められない人が現代は多い。学校は世の中に出るための選択肢を増やすため、これから社会人になったとき、自分のなりたいたいものになるために勉強するところと提示する必要がある。

※25 情報媒体を利用して活用の方法を教えるだけでなく、情報媒体を使って何かを作ったり、新しい利用法を考えさせるような教師になりたいと思っている。生徒自身で考えたり、生徒主体となるグループワーク等は、個人個人の個性が見えたり、生徒同士の新たな一面が見えたりするのではないだろうか。こういった活動を授業に取り入れていけば、生徒たちも自然とその人の中身を見て評価ができるようになるのではないかと考える。近年乏しくなっているというコミュニケーション能力も同時に養えたら人間性豊かな人間へと成長することができると思う。点数化され枠にはめられた社会の中で、その人自身を見ることができるといえる能力は、一つの強みになると思う。私自身もそうなりたいたいと思っている。生徒達をこのような人間性になるように育てられるような教師になりたい。

久留米大学教職課程学生の教職観（教育観・教師観）

累計	累計	累計	累計	各集計
468	人間の在り方生き方及び私のめざす教師像			※学生課題文があるもの
275	人間の在り方生き方に関するもの			
	62	人間の在り方に関するもの		
	40	A	主として、自己に対するもの	
			項 目	
		2	正直	正直に生きること、自分のやりたいことに正直であり、自分の心に正直であること。
		11	素直 (1~25)	自分の心に素直になる。 「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉をスツと出せる、そう感じることができる心
		2	真面目	素直で真面目であることがなにより
		1	我慢・忍耐力	我慢することの大切さを育てる。
		2	メリハリ	集中するときと抜くとき、メリハリをつけることができる人
		1	元気	授業の始まりと最後のあいさつを徹底して元気のある人間を作り出していきたい。
		2	強い心	強い心を養える人間性、時代と人に流されない強靱かつ穏やかな人間性
		3	自律・自立	自己を律することのできる人、規則をきちんと守れる人
		1	責任感	自発的に責任のとれる人間
		1	平等・フェア	平等にフェアに生きる。
		14	モラル・倫理観・道徳・道徳性・規則・ルールを守る。	道徳教育が必要、倫理感に基づいた生き方ができる。
		22	B	主として、他の人に対するもの
		3	ウソをつかない	ウソをつかない生徒を育てる、教師も。 ウソをつかない生徒を育てる。間違っことをしたらすぐに謝れる人間。
		4	迷惑をかけない	周囲の状況を把握して行動することができる人 人に迷惑をかけない。
		3	誠実	誠実であること。
		4	寛大	広い心をもった人間 寛大な心、優しい心 この世界には、接しやすい人、接しにくい人、苦手な人、話しやすい人など様々な人間がいるから。
		2	笑顔	失敗しても落ち込むのではなく、笑いに変えて前へ進む強い人間
		1	信頼	他の人に信頼される人
		5	社会性・人間性 ※2+H22	出会いを大切に、うまく関わっていくことでその人の中身や性格が成長していく。
	213	人間の生き方に関するもの		
		79	A	主として、自己に関するもの

				21	夢・目標・努力・向上心 ※3
					9 いつでも夢や目標をもち、それに向かって努力し続ける人間
					1 人は必ず意味があって生まれてきます。だから、人は夢をもち目標をもって生きていくことが大切です。
					1 自分が将来何がしたいかわからなくても、その時その時でとにかく何かを頑張っていれば、必ず見えてくるものがある。
					4 夢に向かって努力する。
					3 最後まであきらめずやり逃げられる人間
					1 社会に出てもやっていけるように、すぐにあきらめず、何事にも取り組んでいく人間
					1 努力することの大切さ
					1 あきらめない、粘り強さを求めるために、部活に入る、または、個人目標をたてる。
				2	夢中になれるものをもつ
					2 自分が打ち込めるものを見つけ、人生を楽しめる人間に
				2	充実
					2 一日一日を大切に。今日学校へ来て何かを得たという心をもってほしい。
				2	創造力豊か
					2
				14	独自・独創・自己主張 ※4
					8 独自の意見や根拠に基づく自分の考えがもてる人間
					6 人に流されずしっかりと自分の考えを核にもち、他の意見などを参考にしながら成長していく。
				4	個性を生かし、その能力を伸ばす
					3 人は皆平等で、一人ひとり違うのだから、自分の好きな生き方をしてほしい。
					1 学んだ知識を活用、応用して、本人の価値観や行動するフィールドを拡大しながら成長していく。
				1	信念
					1 強い信念をもつ。
				1	中庸
					1 偏った考えをしない。
				4	感受性・豊かな人間性
					4 感受性豊かな人間
				1	自分を知る
					1 自分の性格、やりたいこと、したくないこと、人間として将来どうなりたいか知っておく。
				6	自主・実行力
					1 自ら考え、行動することができる生徒を育てる。
					5 失敗や周りの人を恐れず、自ら率先して行動する人間
				1	臨機応変に生きる
					1
				4	真理、探究心、好奇心
					2 人間は真理の探究をテーマにして生きていくべき。
					1 自分の目や耳をフルに使って、本当のこと、納得できることを見つけてほしい。経済の指標で判断するのではなく、
					1 様々なことに挑戦したり、興味をもち、実践、探究していくことで、多くの引き出しをもつ人間になることができる。
				1	すべてのことに疑問や興味をもつ
					1 当たり前前物やことを当たり前と感ぜさせないことから。
				2	学習
					1 色々なものを吸収し、価値観や行動するフィールドを拡げる。
					1 学びの心
				9	思考 ※5 ※6
					7 自ら考えて行動のできる人
					1 まずしっかりと考える力、「考える」ということを教える。
					1 常に考え続けることができる人間
				4	楽しむ ※7
					3 人生を楽しむことが自分を成長させてきた。
					1 部活動、体育祭、文化祭などを通じて、仲間の大切さ、仲間との経験を楽しむことで、人は成長する。
				134	B 主として、他の人に対するもの

56	<p>人間の尊厳・思いやり・愛情・感謝 ※8, 9, 10, 11</p> <p>24 相手を思いやれる人間, 相手に優しく接する。気遣う, 気配り, 感謝の念</p> <p>2 おもいやり行動を行ったりすることが円滑なコミュニケーションを生み出し, より良い人間関係をつくることにつながる。</p> <p>1 人に優しく, 何事も肯定的に考えるべきで, 頭ごなしに怒るのはよくない。</p> <p>3 周りの人, 一人ひとりの個性を尊重し理解し, 受け入れることのできる生徒に育ててほしい。</p> <p>1 人を尊重し, 人に優しい, 感謝できる人を育てたい。</p> <p>1 感謝の気持ちをもつだけでなく, それを伝えられるようになってほしい。</p> <p>1 どんな人にもどんなことでも「ありがとう」「ごめんなさい」といえること。</p> <p>1 思いやりの心, 心の痛みを理解する心, 譲り合う心</p> <p>2 相手の気持ちに立って考えることができる, 思いやりのある, 温かい心をもった人を育てたい。</p> <p>1 人を愛し, 人に愛される人間, 自分を大事にできない人は他人も大事にできない。</p> <p>1 人の心がわかる人間, 他人にも優しくできる人間</p> <p>2 誰かが困っていれば手を差し伸べることができる人間</p> <p>1 一人ではなく, 周りの人たちと助け合って生きていることに感謝</p> <p>1 感謝の心をもつ</p> <p>親に反抗したり, 色々な欲が満たされるのが当たり前と思っていたり, 子どもの犯罪も多くなった。</p> <p>1 人の気持ちを理解できる, 理解しようとする気持ちをもつことの大切さ</p> <p>1 最近, 自分のことしか考えていない, 自分がよければいいといった考えの人が多く感じる。</p> <p>2 自分中心に物事を考え, 世界を見るのではなく, 他人の目線で物事を考え, 世界を見ていくことが大切</p> <p>1 生徒一人ひとりの存在価値とは, おもいやり, 協力, 他人を認めること。</p> <p>小中高でのいじめによる自殺者が増加している原因。</p> <p>3 思いやりや譲り合う心があれば, いじめはなくなる。</p> <p>2 [他者への理解や尊敬の念の欠如は偏見を生み出す。</p> <p>1 人に優しくすれば, いつかは自分に返ってくる。</p> <p>1 どんなに頭が良くても, 他人を大切にできなかったら, 周りに批判されうわべだけの付き合いになる。</p> <p>近寄ろうとはほとんどの人が思わなくなる。</p> <p>1 人が変わるには勇気があるし, 人を変えるには大変な努力が必要である。気づかしている人はすばらしい。</p> <p>1 損をしない人間になってほしい。</p> <p>人助けするときも, 比較して損が大きいときは控えるという利己的ではあるが柔軟な思考が必要</p>
61	<p>コミュニケーション・協調・協力 ※12, 13, 14, 15</p> <p>7 人との関わりを大切に。地域との関わりを大事にする。</p> <p>1 人と人とのつながりを実感させ大切に人間</p> <p>6 人は助け合い, 協力しなければ, 一人では生きていけない。</p> <p>1 人と人は体力的にも精神的にもお互いが支え合って生きていくことができる。</p> <p>1 人を大切にすると, 社会の中で, 自分の居場所や, 主張するとき, また苦しいときに大きな力となる。</p> <p>2 他人とのかかわりの中で人は成長するので, 周りの人を思いやって, 刺激し合っていくことが大切</p> <p>5 寛大な心をもち, 人と人とのコミュニケーションを大事にする人間性</p> <p>6 協調心, 協力量</p> <p>1 周囲としっかり交わり, 協調し合える人間</p> <p>1 生徒同士, 教師と生徒が交流し, 思いやり, 協力し合う関係を育てる。</p> <p>2 教育実習のとき, 先生から「今の子どもはコミュニケーション力が少ないので, たくさん話を聞いてあげて」と言われた。</p> <p>1 コミュニケーション不足の原因は, 家の中での一人でのテレビゲームなどが大きな原因</p> <p>1 コミュニケーション不足により他人との協力性や集団行動がとれない子どもが増えている。</p> <p>1 人とうまく話せない人や団体行動が苦手な人が増えてきている。</p> <p>12 コミュニケーション能力を身につける。コミュニケーションをうまくとれる人間</p> <p>2 他人の意見を大切にすると同時に, 自分の意見も大切に。</p> <p>1 自分の考えを他の人に伝えることはとても大切なことで, また, 他の人の意見を聞くこともとても大切, 自分の視野や世界観が広がる。</p> <p>1 他人を大切に, 人の話をきちんと聞ける人, 受け入れることができる人。</p> <p>1 他人を大切に, 自分も大切にできる人</p> <p>1 人の話をきちんと聞ける人, 自分が話すだけでなく,</p>

152					1 自己主張ができる人間性をもった生徒、人の立場になって考えることができる人間
153					1 自分の行動に自信をもてる人間、他人の意見もはっきり受け入れることができる人間
154					1 色々な価値観をもっている生徒がいることを知る。
155					1 社会に出たとき、周りの人とぶつからないようにするための方法を知っている人間
156					1 友人との交流や先輩後輩の交流を大切に、その中で支え合いの大切さを学んでもらいたい。
157					2 小さいときから回りの人と関わり、お互いの意見を聞き、皆で多くの挑戦をし、多くの経験を積んでほしい。
158			17	マナー・集団生活 ※ 15, 16, 17	
159					8 挨拶や言葉遣いなどの社会的マナー、教師や目上の人への敬意を払うなど
160					1 人として最低限のマナー（礼儀やあいさつなど）、思いやる心
161					1 当たり前のことが当たり前に見える。挨拶、靴を脱いだら揃える、人の話は目を見て聞くなど
162					1 先輩を見て大きな声で挨拶ができるようになったが、社会に出て一生使えるものであることに気付いた。挨拶は習慣づけておかないとできないもの。
163					1 集団生活の大切さを身につける
164					1 お互いを支えるクラスづくり
165					1 部活動を通じて
166					人と関わることのすばらしさを学び、人間として成長できた。人生を変えてもらった。
167					1 人間関係や人格形成といったものを築いて、社会人となったときにその経験が生かされればいい。
168					1 剣道を通じて、挨拶など当たり前のことを当たり前に見えること、靴を脱いだら揃える、人の話は目を見て聞くなど
169					1 部活動はコミュニケーションをとりやすいので、文武両道をめざしてほしい。
170					
171	189	私のめざす教師像			
172			12	教師個人	
173					1 教師という職業に誇りと強い志をもつ。
174					2 確固たる信念とアイデンティティをもった教師
175					1 最低限のマナーとモラル
176					1 個性
177					1 常に好奇心をもち探究心を忘れない教師、相手の立場になって物事を考え行動できる教師として
178					1 向上心、社会性、広い心をもった教師
179					1 前向きに生きる。
180					1 人に優しく、自分には厳しく
181					2 楽しみながら教師を勤めたい。生徒と一緒に楽しむ。
182					1 自身の学力、伝達力、指導力の向上に努める。
183			46	対生徒 ※ 18	
184					1 率先して教師から生徒に挨拶する。
185					生徒からの返事の挨拶によって、その生徒の今の心情を感じとり相談に乗ったり、
186					いじめの早期発見にも気づくことができる。
187					5 教師も間違えたときは素直に認め直していく。教師が自ら「ありがとう」という。
188					1 資質を発見
189					生徒は各自が能力や才能を持っており、それをひらめかすことが最も大きな仕事
190					2 生徒の夢を後押しできる教師
191					世界で今日あった歴史的なことを知らせたり、「今日頑張ったこと」を
192					毎日数人ずつに発表させるなど
193					13 一人ひとりへの気配り
194					生徒一人ひとりに気を配り、個性を見つけ出し、それをいい方向に育てていける教師
195					1 生徒一人ひとりの尊重
196					8 一人ひとりへの支援
197					一人ひとり必要なサポート、ニーズに合わせた教育的支援をしていく。
198					2 一人ひとりに合った接し方で、生徒と向き合いたい。
199					4 平等に接する。えこひいきしない。
200					うまくいかない生徒だからといって、ほったらかしにはいけない。
201					1 特別扱いせず、障がいをもっている人でさえも同じように接する教師
202					1 広い視野から生徒を観察

					<p>細かなクラスの変化, 生徒の変化を察知することのできる教師</p> <p>1 早め早めの対応</p> <p>1 生徒を頑張らせる雰囲気づくり。 資格取得のための勉強や課外が本当に楽しく, 生徒自らたくさんことにチャレンジしていくような学校づくり。</p> <p>2 多くの経験を伝える。</p> <p>1 生徒一人ひとりへの心理的ケア</p> <p>1 生徒とのよい人間関係が前提 授業や生徒の指導のとき, 嫌いな教師からいわれると反発したくなる。</p> <p>1 先生と生徒である前に人間としての「関係づくり」が必要。子どもに授業に対し意欲的にさせ、子どもが先生に話しやすい環境をつくるには。</p>
	33	指導一般	※ 19, 20		<p>1 筋が通った指導 人として自分の意見を曲げない, 一本筋が通った教師</p> <p>1 優しく楽しく生徒と接する中にも, ときには厳しく叱れる教師, 友達感覚で接しない教師。</p> <p>1 矛盾のあることは言わない。</p> <p>1 誠実で柔軟に対応する。</p> <p>1 生徒を支え導く教師 敬われる存在だけでなく, 生徒を支え, 導くリーダーシップを発揮できる教師</p> <p>1 メリハリをつけた指導</p> <p>4 生徒目線も 教師からの目線だけでなく, 生徒の目線でも対応する教師</p> <p>1 一人の人間として, 同じ目線で物事を考え, 何事に対しても本心で正面からぶつかっていくことが大切。</p> <p>1 クラスで遊ぶとき生徒と同じように楽しめる教師</p> <p>1 同じ目線に立つことにより, 生徒の良い点, 悪い点, 小さな変化も早く見つけることができる。</p> <p>4 教師と生徒との関係, 礼儀をまもる。</p> <p>2 的確さ, わかりやすさ 的確にわかりやすく生徒に伝える, 矛盾したことを言わない。</p> <p>1 実践できる, 口だけでなく 言うだけでなく, 実践できる教師-ありがとう, ごめんなさいを言える。</p> <p>1 生徒と一緒に考え, 一緒に笑い, 一緒に物事を達成できる, また生徒がそうなりたいと願うような教師</p> <p>4 生徒と共に成長できる。 生徒とともに日々成長していく教師</p> <p>1 生徒をサポートする教師 クラスを動かすのは生徒であり, 教師は発表できる環境や助けを求められる環境をつくるなどサポートする役目がある。</p> <p>1 生徒の交友関係を把握する。</p> <p>2 介入しすぎず, でも向き合う教師 怒鳴りつけることはほとんどなく, 問題を私たちが向き合わせ, 私たちをバックアップし, 考えさせて, 乗り越えさせた。</p> <p>2 生徒の考えや思いを尊重する教師 生徒の声を第一に聞き, それを授業やそれ以外のものに生かすこと</p> <p>2 卒業後も自分の力で生きていける人間 生徒が壁にぶつかったとき, その答えを教えるのではなく, 答えにたどりつくヒントを与える。</p>
	44	コミュニケーション・協調	※ 21		<p>3 挨拶のできる教師</p> <p>2 コミュニケーション能力 コミュニケーションをとれる教師, コミュニケーション能力を育てる教師</p> <p>1 話をしやすいような明らかないじめのある教師</p> <p>10 十分に話を聞き, 話をしてくれる。 生徒からとことん話を聞いて, とことん納得するまで話をしてくれる教師</p>

				<ul style="list-style-type: none"> 1 生徒のことをよく知り、異変があればすぐに気がつくほど注意して見て、生徒の意見を聞き、参考にしていく。 3 友人関係を把握し、気軽に相談してもらえるように、日常的にコミュニケーションをとる。 2 生徒の悩みや話をしっかり聞き、生徒自身が考えながら前に進めるような助言ができる教師 1 色々な悩みなど話しやすいような明るくてけじめのある教師 2 面談、交換ノート、休み時間一緒に遊ぶなどのコミュニケーション方法 1 毎日生徒とコミュニケーションをとり、生徒と心を通わせ、色々な話を気兼ねなくできる教師をめざしたい。 1 生徒を含め周りの人のことを考えて行動できる教師 2 心優しく関わっていき、どんなことにも負けない強い心をもって生きていけるようなことを教えたい。 1 だれに対しても平等に接し、どんな話でも最後まで親身になって聞くことができる教師 2 心を生徒とシェアできる教師、まず教師自身が心を開く。 1 全力で生徒にぶつかっていきたいし、生徒にも全力でぶつかってきてもらいたい。 4 生徒を受け入れるだけの大きな器 寛大な心をもって生徒に接する。反発するからといって見放さず、話をきちんと聞く教師 1 生徒同士がお互い支え合えるクラスづくり 1 「こんな優しさを発見したよ」ということを生徒に発表してみたい。 1 生徒と協同した授業づくり 生徒と協同しての授業づくり 4 生徒の模範となる教師 率先したトイレ掃除、服装にも生徒を指導できる模範的な服装を、何事も生徒に二歩進んだ指導を。
	34	信頼	※ 22, 23	<ul style="list-style-type: none"> 1 人間として頼れる存在 教師としてではなく、人間として頼れる存在として、生徒の前に立ちたい。 12 信頼される、慕われる 生徒に信頼され慕われる教師。信頼できない教師の話は生徒は聞きたいとは思わない。 2 生徒を信じられる教師 1 責任感をもった教師 1 生徒の質問や不満を絶対に聞き流してはいけない。 10 生徒の手本となり目標となる教師 1 ボランティア活動を通して、自己中心的な心を誰かの役に立ちたいという心に変えたい。 1 生徒に頑張っている姿をみせると、生徒もがんばる。 1 生徒に好かれる教師 1 生徒に感謝される教師 1 次世代の教師を育てられる教師 1 生徒と一緒に泣くことができる。 1 勉強面だけでなく、部活動の指導により、生活面や人間性の面でも指導できる教師をめざしたい。
	24	教育内容	※ 24, 25	<ul style="list-style-type: none"> 1 命の尊さを教える。 1 助け合いの大切さを教える。 2 基礎基本、表現力・基礎基本の着実な定着 1 「生きる力」を育成するため、基礎基本的な知識、理解を教える。表現力を育成する。 1 勉強の意義・理由 勉強しなければならない理由を生徒にしっかり提示できる教師 2 「学ぶ」ことの深い意味を生徒自身に、生徒自身の力によって探究させるような、未来に羽ばたく生徒の足場となれる教師 1 人は社会に組み込まれており、そのため社会の仕組み、経済、企業などを知る必要があること。 1 失敗、経験 失敗の例を示せる教師、多くの経験を生徒に伝えることにより視野や世界観を広げたい。 1 表現力育成 表現力を育成するため、グループ学習をとり入れる。 1 戦争や差別 戦争の悲惨さや差別のいけないことを生徒に伝えたい。 1 興味関心 興味・関心を持たせる授業 1 「福祉」の授業を通じて、「思いやりの心」「優しさ」を教えてあげたい。

						1 世界に目を向けてもらう授業
						2 平等, フェアー
						人間が平等になるということについて考えさせたい。
						1 日本への誇り
						2 様々な考え方, 個性
						自分の考え方以外に, もっと多くの違う考え方や個性があり, それを受け止める大きな心もった人を育てたい。
						1 生徒と一緒に授業をつくることができる教師
						協同する授業は, 意見交換などにより視野が広がり, 仲間と学ぶことにより知識や技術に理解が深まる。
						1 一人ひとりの資質を見極めることのできる教師
						生徒に考えさせる授業, 生徒主体となるグループワーク等は一人ひとりの個性が発揮される。
						2 授業中の発言などが積極的にしやすい雰囲気づくり